

第五講 前期新石器時代

レポート課題：旧石器時代後期の末に何が起きたのか。

時代区分 (BC)

- 6000/5000 前期新石器時代
- 5000/4500 中期新石器時代
- 4500/4000 後期新石器時代
- 4000/3600 終末期新石器時代

農業文化の伝播

アナトリア~中近東との文化接触・経済交流

農業の開始：地中海農業の三本柱：麦・オリーブ・葡萄栽培の確立

人口：北部ギリシアに集中（大河川や大平野、湿潤な気候の存在）

南部ギリシアは希薄

キクラデス諸島には人々は存在せず。新石器時代の間に移住。

農耕村落の形成と文化

前期新石器時代（前 6000~5000 年頃）

アナトリア~中近東より農業文化の伝播

前 7000 年頃 牧畜（主として家畜化された羊や山羊）

前 6000 年頃 農耕（主に大麦や小麦、豆類・豌豆・）

エンメル小麦、六条大麦（裸麦）、豆類

アインコルン小麦、黍、からす麦、やはず豌豆、豌豆、団栗、無花果

羊、山羊、牛、豚……80%が羊と山羊

村落の形成

北部ギリシア

内陸部の大河川に面した平野部や小さな丘陵の上に形成

家屋は一戸一戸独立、村落の構造は開放的

南部ギリシア

海岸近くの洞窟や交易路上の内陸部の洞窟

食料生産の開始は七千年期に東部ギリシアの肥沃な低地で生じた。穀物栽培が乾地園芸の形態を取ったのかそれとも洪水農業の形態を取ったのかについては論争されている。

羊の死亡データは比較的非生産的な食肉戦略による経営を暗示しており、家畜よりは穀物と豆類が主要な栄養源であったことを示している。

初期のテッサリアにおける新石器時代の居住地は年間を通しての定住性集落ではなかったと議論されてきた。← 1) 家屋の非実体性、2) 堆積層の薄さ、3) 幾つかの遺跡が洪水原に位置している。